〔ウイルス　第66巻　第2号，pp.193-194，2016〕

ウイルス学会関連研究集会紹介

3. ウイルス学キャンプの新生にあたって ～第13回ウイルス学キャンプ in 湯河原～

渡士　幸一
国立感染症研究所ウイルス第二部

はじめに

こんにちは，「ウイルス学キャンプ」世話人（事務局）の渡士です．2016年8月30～31日にニューウェルシティ湯河原で，例年通りウイルス学キャンプ in 湯河原が開催されました．ただし例年と異なるのは，会をアレンジした世話人が本年よりほぼ一新され，新たな世話人メンバーを中心とした開催となったことです．今回は世話人からの視点で，「ウイルス学キャンプ」と第13回本会の紹介をさせていただきます．この会を主催させていただくことになった経緯や無駄話も含めて書かせていただきますが，それによって少しでも雰囲気や，この会が目指したいものなどが伝われば幸いです．

きっかけ

そもそもの始まりは，二年前（2014年）の第11回ウイルス学キャンプ in 湯河原に遡ります．この年に渡士は先代世話人の東京都医学研 小池智先生より若手講演者としてお呼びいただき本会に参加させていただくことになりました．正直に申し上げるとそれまでウイルス学キャンプに参加する機会がなかなかありませんでしたので，事前に会の様子を職場の同僚たちに聞いたところ，「なかなかにタフな会である」との前評判でした．個人的には濃密な研究会を大変楽しみに，東京駅から快速アクティーに乗りました．

会に参加し印象に残ったのは，学会などに比較して大変近いところで先生方や学生，ポスドクさんたちとdiscussionその他の話ができたという点でした．研究室ミーティングとまではいきませんが，学会で聞く完成された話とは異なり，学生さんらの工夫や悩み，息使いまでもが伝わって来るような臨場感ある一般口演でした．ポスター発表しかり．一方，基調講演は完成された横綱級のご発表，若手講演はとにかく勢いある旬の話題，力ある発表を共有できました．また何より今後の自分の研究に大きな影響を受ける夜の総合討論．普段は日本のさまざまな場所で別々のウイルスを扱っている皆さんや先生方が，どのようなことを考え今に至るのか，今まさにどう研究しようとしているのか，将来的にどのような姿を目指していくのか，生の声を交わすことで思いを共有し，自分のいま置かれている状況を見つめ直し，また今後も付き合い続ける友人を得ることができたわけです．

不意に

というわけで，すっかりウイルス学キャンプを楽しませていただきました．また来年も参加しようか，などと考えていたのですが，後日小池智先生から，全く不意にウイルス学キャンプ世話人への打診をいただきました．また事務局として世話人全体を取りまとめる役も仰せつかったわけですが，突然のことに意外な思いでもありました．個人的には，これまで所属する研究所の若手世話係兼顧問としてさまざまな研究会の主催，アウトリーチ活動，合同セミナー企画などに関わり，学生さんら若手研究者とはかなり近い位置で生活してきたのは事実であります．その中で，研究とは密室作業ではなく（密室作業からエッセンスが生まれるわけですが）人と人の関わりの中で生産的仕事ができるということ，そのためには学生さんポスドクさんらには研究分野内外の様々な人々と出会い，自分を表現し，深く意見を交わすことの大切さ，また批判される機会に身を置くことの重要さ，を申し上げてきました．すでに若手研究者とは呼ばれなくなった自身を鑑みて，ウイルス学キャンプで様々な立場や境遇のみなさんに何かの場・きっかけを提

連絡先
〒162-8640
東京都新宿区戸山1-23-1
国立感染症研究所　ウイルス第二部
TEL: 03-5285-1111（内線2522）
FAX: 03-5285-1161
E-mail: kwatashi@nih.go.jp

供できるならと思い，世話人を引き受けさせていただくことにしました．

開催

第13回ウイルス学キャンプin湯河原は2016年8月30-31日，例年とほぼ同じく37名の参加者で（当日日本を横断する台風以外は）トラブルなく開催されました．招待講演として，金沢大学 村松正道先生「APOBECファミリーとその抗ウイルス活性」，北海道大学 好井健太朗先生「ダニ媒介性フラビウイルスの神経病態発現機序」，都立医学研 藤井健先生「エンテロウイルス71の病原性解析」のそれぞれのお話をうかがいました．純に学問のお話だけでなく，目一杯サイエンスする姿勢（村松先生），流行に流されすぎない（好井先生），マウス作成の運命の分かれ目（藤井先生），などの実体験に基づくお話，とても面白かったです．また一般口演の東大医科研 森山美優さん，名古屋大 吉田全宏さん，筑波大 原田芳美さん，名古屋医療センター 岡田彩加さん，東大医科研 前田史雄さんのそれぞれの発表と討論もそれぞれが印象に残るものでしたし，ポスター発表でも大変熱いdiscussionがおこなわれました．発表者と参加者のみなさんにお礼申し上げるとともに，世話人先生方のバックアップやお心遣い，また当日現場スタッフの筑波大 川口グループ，感染研 渡士チームの学生・ポスドクのみなさんに感謝します．

これから

前任の小池智先生から「ウイルス学キャンプ」成り立ちの経緯や，目指していたものをうかがう機会がありました．永井美之先生のお言葉から端を発した本会，もともとは千本ノック方式で若手研究者を鍛える場，何故ウイルス学を研究するのか，まで問いつめてウイルス学の息長い発展のために発足した場であるとのことでした．その結果この会を通して成長され，現在最前線でご活躍されている先生方もいらっしゃいます．これまですばらしい会を続けて来られた小池先生はじめ先代の世話人先生方にお礼申し上げるとともに，私たちはこの会を今後どうしていくのかを考え，参加者の皆さんにとって有益な会となるよう努力して参りたいと思います．いいものを残しながらも様々な新しい意見を取り入れ，ウイルス学を指向する日本の多くの研究者がいちどは通って行く道にしたいと思います．その手始めとして，来年度の開催ではこれまでにない新しい企画を取り入れていこうと計画中ですので，どうぞご期待ください．

最後に，世話人としてもっとも重要な課題と感じたこと，それは私たち世話人が今後良い仕事をして，研究者としてさらに大きな存在になること，またその過程を見ていただき，若手研究者のみなさんに夢を持ってもらうこと，その実現の仕方を示すことではないかと思いました．つまりは振り返って，結局自分の研究を突き詰めて良い仕事へと完成させ，新しいものを構築すること，それが私たち世話人の仕事ではないかと感じました．私たちもウイルス学キャンプの中で若手研究者の皆さんと一緒に成長し，日本・世界のウイルス学研究の発展に貢献するために邁進いたします．以上簡単にウイルス学キャンプの紹介をさせていただきましたが，今まで参加したことのない方も是非いちど湯河原でみんなで素晴らしい時間を共有しませんか？開かれた会にしていきますので，来年もみなさんのお越しを世話人一同，楽しみにお待ちしております．

謝辞

「第13回ウイルス学キャンプ in 湯河原」は日本ウイルス学会，文部科学省科研費新学術領域「感染コンピテンシー」，文部科学省科研費新学術領域「ネオウイルス学」に共催いただきました．ここにお礼を申し上げるとともに，今後ともご支援のほどよろしくお願い申し上げます．

開催ご案内

「第14回ウイルス学キャンプ in 湯河原」
日時：2017年6月5日13時30分～2017年6月6日12時
場所：ニューウェルシティ湯河原
問い合わせ先：virology-camp@nih.go.jp
（世話人事務局　渡士幸一）

近々，日本ウイルス学会のホームページにも案内を掲載します．